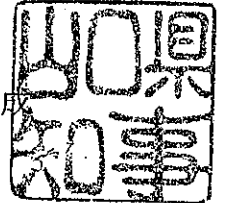




平19 道路建設 第77号  
平成19年(2007年) 5月7日

国土交通省道路局長 様

山口県知事 二井 関 成



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について (回答)

平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼のありましたこのことについて、別紙のとおり回答します。

記

- 1 山口県の道路政策の概況と道路整備の現状
- 2 重点化を進める上で特に優先度の高い政策
- 3 効率化を進める上で重視すべきこと
- 4 その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

山口県道路建設課  
道路企画班  
担当 熊野  
TEL 083-933-3714

## 中期的な計画の作成にあたっての意見について(回答)

### 1 山口県の道路政策の概況と道路整備の現状

#### (1)山口県の長期計画

- 山口県では、平成10年2月に、21世紀初頭を展望した総合的、長期的な県政運営の指針「やまぐち未来デザイン21」を策定し、これまで四次にわたる実行計画に基づき、本県の将来を見据えた社会システムづくりや基盤づくりに積極的に取り組んできた。
- 現在は、第5次実行計画期間中(H18～H21)であり、第5次実行計画は、デザイン21の仕上げの時期において、「今なすべきことに対応」し「山口県らしさを創造」する視点に立って、本県が幅広い分野で有している「住み良さ」の向上に重点的に取り組むとともに、交流の促進や地域活力の維持・創出による「元気県づくり」を市町、県民の皆様とともに積極的に推進していくこととしている。  
この第5次実行計画を分権と地域間競争の時代における新たな県づくりを本格的に進めるための重要な計画と位置づけ、市町と県民の皆様の役割をより重視しながら、「自立・協働・循環」の理念の下、「住み良さ日本一の元気県づくり」に取り組んでいる。
- 山口県の道路整備の長期構想としては、「やまぐち未来デザイン21」の中で、地域間の移動時間の短縮と快適な歩行空間の確保を目指した「ジョイフルロード構想」を掲げ、本県の道路行政の指針としている。
- 現在、「ジョイフルロード構想」を実現するため、平成15～19年度を計画期間とする「ジョイロードプラン」を策定し、計画的かつ効率的な道路整備を進めているところである。
- ジョイロードプランは4つの方針を掲げ、また、実施の評価に当たっては、道路整備の効果を現す客観的な評価指標を設定し検証することとしている。

#### 【4つの方針】

- ・ 県民参加のみちづくり
  - ・ 広域交流を進めるみちづくり
  - ・ 地域の自活を支えるみちづくり
  - ・ 人と自然を大切にするみちづくり
- ジョイロードプランは、平成19年度に最終年度を迎えることや厳しい財政状況の中で、少子高齢化の一層の進展、地方の自立の必要性の高まり、災害に備え安心して安全な社会の実現等の多様な課題に対し、的確に時代のニーズをとらえ、より効率的な道路施策を展開するため、現在、平成20年度からの山口県の新しい道路整備計画の策定作業を進めているところである。

#### (2)山口県の道路整備の供用状況

高速自動車国道	3路線	延長 267km	全国 8位
一般国道	17路線	延長 1,112km	全国 22位
県道	259路線	延長 2,748km	全国 18位
市町道		延長 12,115km	全国 34位
合計		総延長 16,241km	全国 32位

平成17年4月1日現在

○道路全体の改良率 58.8% (全国23位)

## 2 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

### (1)道路政策の基本方針:高規格幹線道路から生活道路に至るネットワークの構築

- ・山口県では、「住み良さ日本一の元気県づくり」に取り組んでおり、暮らしの中の県民の満足度の向上が重要な課題である。
- ・平成17年に国土交通省で実施された道路利用者満足度調査では、山口県は満足度において全国第1位となっており、高規格幹線道路から身近な生活道路に至るまで多くの項目で一定の高い満足度が得られ、各項目において概ねバランスのとれた評価を得ている。このことは、本県におけるこれまでの道路政策が、多様な県民のニーズを的確に反映してきた成果として受け止めることができ、今後も、優先度の高い政策としては、このバランス感を伴う道路施策の推進を基本としつつ、着実に総合的なネットワークを構築していくことが重要であると考えている。

### (2)主要な課題

- ・本県における道路政策上の主要な課題は、地形的、歴史的要因、時代背景などから代表的には以下の6点が掲げられる。

#### ①【陰陽格差の是正:高速交通体系の整備…山陰道の整備等】

- ・山口県の道路政策における固有の課題、特に、重点化を進める上で優先度の高い施策としては、高速交通体系における陰陽格差の是正や山陽側で顕著な渋滞対策に代表される。特に、高速交通体系における陰陽格差の是正については、救命・救急医療の課題など県民の生命にかかわる重要な要素を含んでおり、山陰道を始めとする高規格な道路の整備を促進することにより、早期に課題を解決する必要がある。また、山陰地域の活性化には、豊かな自然や歴史的遺産を活かした観光の振興も重要な施策であり、この点からも高規格な道路の整備は喫緊の課題である。

#### ②【山陽側に集中する渋滞対策】

- ・県内の主要渋滞ポイントは47ポイントあり、ほとんどが山陽地域に集中している。直轄国道での主要渋滞ポイントは36ポイントで、対策としては国道2号等の主要幹線道路のバイパス整備が課題である。

#### ③【市町村合併による広域化した市域への対応】

- ・山口県では、現時点で従来の56市町村から22市町へと市町村合併が進んでおり、旧市町村の中心市街地相互や新市の中心部への連絡機能の強化などの広域化した市域への対応が課題である。

#### ④【少子高齢化対策】

- ・本県のみならず全国の地方都市共通の課題としては、少子高齢化対策が今後の重要な政策課題として考えられる。
- ・山口県は、全国平均に比べて約10年早いスピードで高齢化が進行している。高齢化に関しては、交通安全対策はもとより総合的な高齢者交通事故防止対策の推進が重要課題であり、今後、団塊の世代の高齢化の進展が見込まれるところであるため、バリアフリーなど安心・安全な交通社会をどう構築していくかが課題である。

#### ⑤【中山間地域の振興】

- ・過疎地域の衰退への対策についても今後の重要な課題である。過疎の進む中山間地域の振興に関しては、平成18年7月11日に「山口県中山間地域振興条例」を公布し、生活交通ネットワーク形成の支援事業などを展開しているが、過疎

バスの継続など今後さらに中山間地域における総合的な交通政策の立案・施行が課題である。

⑥【計画的な既存ストックの維持管理(アセットマネジメント)】

- ・道路の維持管理面では、今後は、これまで作り上げてきた道路ストックを限られた資金でどのようにマネジメントしていくかが大きな課題となっており、道路資産の有効活用や積極的な予防保全による道路資産の長寿命化など、道路の維持管理部門においてもライフサイクルコストの最小化に向けた取り組みの強化が必要な時代になってきている。現在、担当部局において調査・検討を進めているところである。

(3) 道路政策の方向性(次期道路整備計画H20～H24における方向性)

- ・平成19年3月に、山口県の次期道路整備計画策定のための第1回目の「山口県道路懇談会」を開催したところである。
- ・本県における道路政策の方向性としては、上記の6主要課題を含めた下記の項目、キーワードを中心に、今後、議論を深めていただく予定としている。

○広域交流・連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高速道路等へのアクセス強化</li> <li>・高規格幹線道路の整備</li> <li>・高度医療施設へのアクセス強化</li> </ul>
○地域経済活動等の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物流の円滑化、効率化</li> <li>・観光振興施策の支援</li> </ul>
○生活基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通渋滞対策の推進</li> <li>・市町の一体性を高める道路網の強化</li> <li>・中山間地域の道路網の強化</li> </ul>
○安全・安心の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災や減災対策の推進</li> <li>・道路施設の維持・修繕対策の推進</li> <li>・交通事故の削減や安全な歩行空間の確保</li> </ul>
○良好な市街地空間の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地空間の整備</li> <li>・バリアフリー化の推進</li> <li>・交通結節点の改善の推進</li> </ul>
○住民連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民との連携の推進</li> </ul>

### 3 効率化を進める上で重視すべきこと

#### ①【県民参加による道路事業の効率化、円滑化】

- ・道路行政を円滑かつ効率的に進めるためには、道路行政全般に対する県民の関心の喚起が重要であり、そのためには、近年広がりつつあるPI活動の実施や住民の維持管理への参加等を通じ、道路行政に対する県民の理解と協力を地道に引き出していくことが必要であるものと考えている。また、県民ニーズに的確に対応した道路整備を進めるためには、事業に関する内容・効果等のわかりやすい説明、地域住民との対話の促進等に努めるなど、県民の意見をみちづくりに積極的に取り入れることが、事業自体の効率化に直結するものと考えている。

#### ②【ローカルルールの積極的採用】

- ・道路事業の効率化を進める上では、まず、効率的な予算の執行が重要であり、地域の実情・ニーズに合わせ、投資が華美・過剰にならないようなローカルルールの適用などに努める必要がある。

#### ③【入札契約の適正化、事業評価システムの充実、さらなるコスト縮減】

- ・道路事業の効率化を図る上では、道路の建設や管理にかかるコストを縮減するとともに入札契約の適正化など事業の透明性を確保することが重要であり、本県においても一般競争入札の拡大、電子入札や事業評価システムの導入・充実などを行い、透明性、公平性の確保や適切な事業の進行管理に努めているところである。

#### ④【既存ストックの有効活用(高速道路料金の引き下げ、道路の質的改良等)】

- ・これまで長年積み重ねてきた道路ストックの有効活用も効率化の観点からは重要な施策である。特に、高速道路料金の引き下げは、現道から高速道路への転換を促進し、現道部の渋滞緩和に資する重要な課題である。また、バリアフリー対策などの既存道路の質的改良の促進なども今後の課題である。

### 4 その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

#### ①道路整備財源の確保

- ・道路整備財源の確保については、地方の声や実情に十分配慮し、地方の道路整備が計画的かつ安定的に進められるよう財源の確保を要望する。
- ・現状において、山口県の道路整備予算について、毎年、相当額の一般財源の投入を余儀なくされている。昨年12月の政府・与党合意においては、毎年度の予算において、道路歳出を上回る税収は一般財源とするとされたところであるが、地方においては現状の時点で矛盾を生じる内容となっている。
- ・厳しい財政事情を抱える地方にとって、道路整備財源の確保は重要な課題であり、道路特定財源の地方への配分割合を高めることについての検討をお願いしたい。

#### ②高規格幹線道路網の着実な整備

- ・高規格幹線道路の整備について、本県としては全体のネットワーク化は不可欠であると考えており、地域からの要望も高い重要課題である。高規格幹線道路は、国民生活や経済活動の骨格を形成するものであり、日本の将来の活力を支える最も重要な社会基盤であると考えている。国におかれても、全体のネットワーク化に向けあらゆる手法を駆使して着実に整備する方針を明確に示していただきたい。また、山陰道をはじめとする本県の主要な幹線道路については、是非、道路整備の中期計画に盛り込んでいただくことをお願いするものである。